

第一〇二回楽々俳句会(ちば)

令和五年十二月十八日(月) 晴

吟行：登渡神社 九時集合 投句三句 五句選

句会場：参集殿 十時から 茶話会

- | | | |
|----|--------------------|-----|
| 武久 | 2 竹灯明等間隔に年用意 | 成子 |
| 久 | 3 根上の松に寄り揃う実千両 | 宣子 |
| 武久 | 2 神水の乱るるリズム冴ゆるかな | 武彦 |
| 武久 | 2 2 青空に溶け入るばかり枯木かな | 静代 |
| 久 | 2 1 旅立ちぬ句友偲ぶる収め句座 | 恵美子 |
| 武 | 1 2 手を打ちて神に近づく十二月 | 洋子 |
| 武 | 1 2 ばら積みの切り口新た年木樵 | 久登 |
| 武 | 1 1 箒目はやさしく立てむ石露の花 | 洋子 |
| 久 | 冬ざれや枯萩むざと刈られけり | 弘子 |
| 久 | 年の瀬や彫の龍発次年へと | 恵美子 |
| 久 | 冬座敷参集殿の句会かな | 粹歩 |
| 久 | 戦無き平穏に古い聖菓切る | 恵美子 |
| 久 | 1 2 沈黙の色あざやかに冬紅葉 | 洋子 |
| 久 | 1 御神木銀杏の落葉仁王立 | ミチ子 |
| | 御神木の銀杏散りしや仁王立 | |
| 1 | 1 登戸浦冬至の空に黒い富士 | 利太郎 |
| 1 | 1 参道は正月の道年詰まる | 武彦 |
| | 3 手袋をきつぱり捨てて句座の人 | 武彦 |
| | 3 冬椿寒さに向かい凜と咲く | 弘子 |
| | 3 神木の尖る冬空青き画紙 | 成子 |
| | 2 枯葉つけ竹箒立つる水神社 | 久登 |
| | 2 残る実に鳥群がれり冬木立 | 今日子 |
| | 2 数え日や参道埋める飾り竹 | 信雄 |
| | 2 年の瀬の社の森の静寂さ | 利太郎 |
| | 2 木戸口の闇を明るく冬の月 | 宣子 |
| | 2 榮子さん偲べば寒し参集殿 | 粹歩 |
| | 2 竹灯籠冬の参道灯り次ぐ | ミチ子 |

偲んで寒し
灯籠は秋の季語

2 千両や日溜りそつと身を寄せて 静代 日溜りに身をそつと寄せ

1 冬座敷参集殿の句会かな 粹歩

1 年の瀬の木つ端あつまりお炊上げ 豊隆

1 砂利音の響く境内十二月 粹歩

1 大鳥居返す光が日向ぼこ 育子

1 ウオークの終えて楽しむオデン酒 利太郎

1 冬めくや別れと出逢い絵馬に賭け 信雄

亡き姉の思いを馳せし冬の夜

見下ろせる灯りの数やクリスマス

ベルの音の笑みこぼれたるクリスマス 光の
ベルだけでは分からない

クリスマスハンドベルの音笑みこぶる

冬の空薄雲ゆつくり東へと

セーターの袖通す度日にち過ぐ

朝寒し待つ人すべてスマホ見て セーターの袖口徐々に広がれり

朝寒し皆スマホ見てバス待てり

本年の災ひ払ふ大掃除

我が年しみじみ思う柚子湯かな

冬風の日溜りにいて和む心

冬風の日溜り心和むかな

グラタンのチーズふつつ星冴ゆる

枯野原一〇〇万個の電飾

枯野原電飾灯る一〇〇万個

スケルトン光差込む冬の庭 スケルトンの意味は

御神木靈気を宿し年の暮れ

参加者 成子・洋子・恵美子・育子・ミチ子・弘子・宣子・静代

利太郎・粹歩・豊隆・信雄・武彦・久登

欠席 園子 投句・今日子

予定

一月十一日(木) 吟行なし 兼題・冬眠 十時活動センター

二月二十七日(火) 中山法華経寺吟行 十時 山下総中山 京成中山十時二十分

句会場 昼食・菊寿司 十二時 句会十三時から十五時